

二十一世紀における 万国津梁の実現



二〇〇一年九月十一日、今世紀最悪の悲劇がニューヨークを襲った。(二十一世紀は始まったばかりだが、この事件が最悪であると考えたい。) 同時多発テロというIT社会、グローバル社会を象徴するこの事件を、私たちは茶の間のテレビ画面から映画を見るような感覚で見せられたというのもし痛い話である。

この事件によって人々は飛行機が武器になり得ることを教えられ、一斉に飛行機での旅行を控えだした。



沖縄コンベンションセンター 館長
(沖縄振興開発審議会 総合部会 専門委員会委員)

比嘉悦子

た。その影響をもろに受けているのが航空会社と世界各地の観光地、そしてその関連産業だ。沖縄もその例に漏れない。観光立県を打ち出し、ポスト第三次沖縄振興開発計画においてもリーディング産業としての観光・コンベンションが強調されている矢先である。案の定、いつもは十月から十二月に集中している修学旅行がなだれの如くキャンセルされ出した。十月二十九日現在、沖縄観光コンベンション・ビューローの発表によると修学旅行のキャンセルが六百七十八校十五万三千七百八十八人、一般団体が千三百三十八団体四万六千九十八人だという。個人客のキャンセルを入れると二十五万人から三十万人に達すると言われている。暗いニュースが続く中、そのような空気を一掃するようなイベント「第三回世界ウチナンチュ大会」が十一月一〜四日にかけて沖縄コンベンション・センターを主会場に開催された。「ウチナンチュ

ユ(沖縄人)大会」は移民を中心に世界各地へ雄飛して行った県人とその関係者(配偶者、二世、三世など)を人的ネットワークとして結び付けようという目的で平成二年(一九九〇)に第一回、平成七年(一九九五)に第二回が開催された。平成十二年(二〇〇〇)の開催予定であった第三回はG-8サミットのために一年遅れの開催となった。

県系人と呼ばれる世界のウチナンチュは現在三十カ国以上の国に約三十万人が確認されているが、今回も二十八カ国二地域から四千人のウチナンチュが集った。最初は世界に散らばる沖縄関係者を交流させる同窓会的この大会も第二回では次世代に繋ぐ、次世を育てるという意味でジュニア・サミットが加わり、第三回の今大会からは留学生と沖縄の学生たちが交流する学生会議とワールド・ビジネスフェアが新しい分科会として加えられた。また大会に先立って行われた「第五回WUB世界大会 東京二〇〇一」(十月二十九、三十日)は、世界のウチナンチュ・ビジネススマンの集まりで、ウチナンチュ大会が単なる交流会から文化、教育、経済に及ぶ実のあるネットワーク創りへと発展していることがわかる。

WUBの正式名称はWorldwide Uchinanchu Business Associationで、ハワ

イの県系二世ロバート・仲宗根氏の呼びかけで結成された。

一九九七年九月にハワイにおける第一回大会を開催して以来、一年毎に世界大会を開いている。名誉会長を務める稲嶺県知事も「WUBは「沖縄移民史」のひとつとして認識している」との見解を示しており、ロバート・仲宗根氏も「当初三回までの大会はネットワークの基盤整備に時間を取られていたが、第四回大会からは具体的な物産や商談がまとまり、これからもっと大きな力となって沖縄経済の振興に貢献できる」と語っている。ちなみに第五回大会のスローガンは「ITで結ぶ二十一世紀」であった。

二十一世紀に向けたウチナンチュの更なる構築を掲げた「ワールド学生会議」は大会初日を除く三日間、述べ十八時間をかけて県内外在住のウチナンチュ学生達が討議した。かなり白熱した論議が交わされたが、彼等が最終的に提案したのは、世界のウチナンチュを繋ぐホームページを立ち上げる事、継続した交流と人材育成などであった。

大会会場にいながら総ての会議をじっくりと聞く事はできなかったが、世界の架け橋ならんとするウチナンチュのパワーを肌で感じ、沖縄の二十一世紀における万国津梁の実現は間近にあると確信した四日間であった。